

## 眼から触覚が再生したイセエビ

平成 30 年 10 月 21 日に伊豆漁協稲取支所から“目から触覚が生えているイセエビが獲れた”との電話が入りました。何かの間違ひではないかと思ひながら稲取支所に向かうと、そこには眼の位置に触覚が生えている少しグロテスクな姿のイセエビが待っていました(写真)。左側の脚が 2 本とれていゝる他は通常のイセエビと変わらない姿です。何らかの再生異常と思ひましたが、このようないセエビは見たことが無いのでサンプルとして受け取り、分場で調べてみました。すると今回と同様にイセエビの眼から触覚が再生した 3 件の報告を見つけました(下表)。

年代順に、1924 年に神奈川県の東京大学三崎臨海実験所に持ち込まれた全長(頭部の 2 つの棘の間から尾鰭の先まで) 18 cm の雌<sup>1)</sup>、1967 年の春に東京都の三宅島で漁獲された頭胸甲長 9.5 cm、体重 885g の雌<sup>2)</sup>、1991 年に報告された千葉県勝浦市の採集物<sup>3)</sup>の 3 例です。このうち 1991 年の例は食用に供された後の殻が報告されており、体重や雌雄などについて記述はありませんでした。

さて今回のイセエビは頭胸甲長 8.4 cm、体長 25.1 cm、体重 570g のオスで、左眼があつた部分から触覚が生えています。採捕した安藤さんに聞いてみると、志津摩湾に仕掛けたイセエビ刺網で漁獲したとのことでした。

これは、器官が損傷を受けて失われた後に、元々あつたものと異なる器官が再生した“異形再生”といわれるもので、古くから知られていゝるものです。ザリガニの仲間では、実験的に異常を発生させることもできるようですが、天然のイセエビにこのような現象が起こることは、大変珍しい例と思ひれます。サンプルを提供していただいた伊豆漁協稲取支所と安藤さんにお礼申し上げます。

### 採集記録

---

採集日 2019 年(令和元年) 10 月 21 日  
採集者 安藤雅基 氏 (伊豆漁協稲取支所 安貞丸)  
採集場所 静岡県東伊豆町稲取地先 (志津摩湾)  
採取方法 イセエビ刺網  
大きさ 頭胸甲長 8.4cm 全長 25.1 cm 体重 570 g オス  
異常部分 左眼

---

### 文献

1) YOSHII, N. (1931) Note on a Japanese Spiny Lobster with an Antennule Regenerated in Place of the Eye. Journal of the Faculty of Science,

Imperial University Tokyo, SectionIV, zoology. Vol. II, 445-447.

2) 倉田洋二(1970) イセエビの奇形 採集と飼育, 第32巻, 1号.

3) 武田正倫、安原健允(1991) タカアシガニの額角とイセエビの眼柄に出現した奇形、Researches on Crustacea, No. 20, 57-62.



写真 左眼から“触角”が再生したイセエビ  
(令和元年10月21日稲取地先採集)

表 イセエビの眼柄異常の報告

採集日	採集場所	サイズ	異常位置	性別	報告者
1924年	神奈川県 (三崎地区)	体長 約 18 cm	左眼	メス	吉井檜雄 <sup>1)</sup>
1967年春	東京都三宅島 神着地先	頭胸甲長 9.5 cm、体長 23.7 cm、体重 885g	右眼	オス	倉田洋二 <sup>2)</sup>
記載なし (1991年報告)	千葉県勝浦	頭胸甲長約 12.5 cm*	右眼	—	武田正倫他 <sup>3)</sup>
2019年 10月21日	静岡県東伊豆 町稲取地先	頭胸甲長 8.4 cm、体長 25.1 cm、体重 570g	左眼	オス	本報告

\*甲の正中線に沿った長さ

(高木康次)